

令和6年度 第6回藤沢市市政運営の総合指針改定委員会

日時 2024年7月18日(木)

政策会議終了後

場所 庁議室

日 程

1 開会

2 議題

(1) 前回会議の開催結果について

(2) 基本方針改定素案の作成に向けた意見照会の実施結果について(続き)

(3) その他

3 閉会

(事務局 企画政策部企画政策課 内線2175)

議事録

藤沢市市政運営の総合指針改定委員会を次のとおり開催した。

会議名	令和6年度第5回藤沢市市政運営の総合指針改定委員会
開催日	2024年(令和6年)7月4日(木) 8:38~9:47
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	鈴木市長、中山副市長、川崎副市長、岩本教育長 (改定委員会委員) 総務部長、企画政策部長、財務部長、防災安全部長、市民自治部長、生涯学習部長、福祉部長、健康医療部長、保健所長、子ども青少年部長、環境部長、経済部長、計画建築部長、都市整備部長、道路河川部長、下水道部長、市民病院事務局長、消防局長、教育部長、議会事務局長、監査事務局長、選挙管理委員会事務局長、農業委員会事務局長
議 事	議題(審議事項) (1) 前回会議の開催結果について (2) 市議会議員全員協議会(2024年6月18日)への報告について (3) 基本方針改定素案の作成に向けた意見照会の実施結果について (4) その他
内 容	1 開会 2 議事 (1) 前回会議の開催結果について 企画政策部長からの概要説明については省略。 《内容》 5月23日の第4回会議開催結果を確認いただくもの。 《主な意見等》 なし。 (2) 市議会議員全員協議会(2024年6月18日)への報告について 企画政策部長からの概要説明については省略。 《内容》 6月18日の議員全員協議会の開催結果を確認いただくもの。 《主な意見等》 なし。 (3) 基本方針改定素案の作成に向けた意見照会の実施結果について 企画政策部長及び企画政策課から、資料に基づき概要説明が行われた。 《内容》 基本方針改定素案の意見照会結果に関して、意見交換をお願いするもの。

<p>内 容</p>	<p>≪主な意見等≫</p> <p>○人口施策について</p> <p>⇒総合指針は重点化プログラムで、最上位ではないが、横出しで重点項目を拾って計画にしている。ただし、2040年の目標を掲げているのは最上位計画の意味が含まれていると感じるが、この辺の書き方はどうか。</p> <p>⇒この総合指針が市の中でどういう位置づけであるかを記載する方がわかりやすいと思う。また、例えば、やりたいことが実現できるまちを進めるなど、今後4年間で進める目標を、冒頭又は結びで書いた方がいいと考えている。それから、総合指針を2回改定する中で、それぞれのこの4年間でやってきた経過を成果として記載をすると、一連の流れとして、今後4年間はそれを踏まえてどうしていくかが市民にわかりやすいのではないか。</p> <p>⇒国土交通省の発表している資料に、建物が壊れた事後の対応の都道府県別1人当たりのインフラコストがどのぐらいかの表がある。特に地方において、人口要因により1人当たりのコスト増になっていることから、一定の人口が必要だということは明らかである。高齢化や人口減少がやがて右肩下がりになることは避けて通れないと思うが、いかに急激に落とさないで維持できるようにするかが非常に重要なことなので、それに向けて早めに着手していくべきと考える。</p> <p>⇒人口減少や、人口の今後のピークの捉え方については、行政は選ばれる都市、住み続けられることを普遍的に目指している。しかし、人口のピークに対してプラス何千人という目標値を持ったり、その目標値に対して特別な政策を打っていくことには違和感がある。明治地区と辻堂地区の5年間の中で転入された方に対するアンケート結果を見たところ、「住みやすい」または、「買い物しやすい」というような理由で選んでいて、「地価が高い、賃料が高い」ことが悪いところだと言いながら、住み続けたい人が90%であった。こういった行政として当たり前のことをやって、例えば地域経済の循環だとか、都市の自然と開発のバランスの問題をしっかりとっていくことで、必然的に選ばれていくと考えており、選ばれてほしいという目標値に対して、住んでくれたら100万円あげますというような政策ではないと感じている。</p> <p>⇒自然増に関して、こども計画を立てるために専門部会を開いて意見交換をしているが、結婚・出産を促すような施策に対して委員の中では懐疑的な声大きい。行政がどこまで公費を投じるのかや、パートナーシップ制度なども作り、必ずしも異性間の結婚や出産だけではない家族のあり方を認め合う社会に向かおうとしている中で、行政が特定の方向に後押ししていくのであれば、他の選択肢に対してどういう支援ができるのかも併せて語られるべきである。家族のあり方に行</p>
------------	---

<p>内容</p>	<p>政が介入することは少し抑制的になり、多様性を推進していくことに力を注ぐという意見であり、市政運営の総合指針とも整合を取る必要があるが、こども計画はその方向性になるのではないかと思っている。資料の各課の意見には、定住人口に関するものが多いが、下り坂になってからでは遅いので、藤沢に住んでなくても関わりを持ってくれる関係人口をどうやって増やすかを具体的に見せることも必要ではないか。</p> <p>○13地区のあり方や都市基盤の今後の展望について</p> <p>⇒13 地区は歴史的な背景があるから、それを変えることは難しいと考えているが、例えば湘南台のセンターが建て替えの際にはもっと機能を重点的にして、南と北の拠点みたいな形にしていくなど、いろんな機能の差は出てくると感じている。</p> <p>⇒藤沢市の成り立ちは重きをおく必要性があると考えており、13 地区を統合することではなく、拠点としてどう位置づけをするかが大きな流れと思っている。拠点については、集約化の必要があり、確実にやっていくべきだと考えるが、各地区の特色や、人口、産業の傾向を的確に捉えて行う必要があるのと、地域に誇りを持って活動をしていただいているので、それをないがしろにはできない部分と、時代としては取捨選択をしていかななくてはいけない気持ちを持っている。</p> <p>⇒藤沢の地域包括ケアシステムやケアラー支援、コミュニティスクールなどの課題を突き詰めると、最後は地域づくりというキーワードに結び付くと思っている。これからいかにその地域をしっかりと作っていくのが、ますます重要になってくるのではないか。センター・公民館の役割は非常に重要だと感じるので、ますますそういった役割が付加されていく方向になったらいいと思っている。</p> <p>⇒そこにずっと住み続けることは、選択の余地がそれしかないという方がほとんどなので、現場からするともう少し地域に目を向けてほしいと市民は思っていると感じている。それぞれの地域にはそれぞれの特性があって、今住んでいる人がどう住まいやすくその地域に向けた政策がうたれるのかを、地域としては感じるところがあると思っている。抽象的だが特性に合わせた細かな見方で、高齢者がどう安心して過ごせるのか、あるいは、子育て世代がどう安心して過ごせるのか、そういったところも目を向けていただけるとよい。</p> <p>⇒地区センターごとの特色について、防災や学校運営など様々な点で強い意識を持って取り組まれている方が多くいる。そのような中、他地区と一緒にやることになった場合には、違和感を持つ方々がいらっしゃるのも特徴である。今の13地区のあり方は、藤沢にとっては他の市町村にない強みだと思うので、それぞれの特徴を生かした中でこれ</p>
-----------	---

<p>内容</p>	<p>までの取組を推進していく考え方はすごくいいと思うし、また外から見たときの藤沢市の強みではないか。そういった強みをこれからもどんどん生かしていくのがいいのではないか。</p> <p>○投資の最適化と財政余力の創出と対応、基本目標、将来見通しの幅について</p> <p>⇒令和9年度10年度に非常に歳出額が集中しているが、都市基盤については今お金を使っても後で事業者や企業が来たりして税収が増えれば、投資の最適化として効果があることだと思っているので優先してやっつけていこうとしている。必ずやらなければいけない扶助費などが歳出としてあるので、いかに平準化して歳入に合った事業をするかを各部局の方には考えていただきたいが、将来にわたって見込めるものであれば進めていただきたい。</p> <p>⇒例えばこれから拠点を作ろうとするときの効果は、フロー効果とストック効果があるが、ストック効果を確認しながら事業を始めることが大前提で、大きな事業についてはこのストック効果がどれくらい発生するのか、それに対して投資とのバランスを見ることが着手の前提になってくるので、経済的な都市のあり方についてはチェックが必ず入ると思っている。ただ、投資に対する対価で選ぶことと、それ以外の行政としてやらなければならない事業をちゃんと差別化しておく必要性を感じている。</p> <p>⇒たまたま若い人と藤沢の特徴を生かしたまちづくりについて話し、様々な提案があった。藤沢の資源や特性を考え、特徴を出したまちづくりも必要と感じているが、どう表していくか。</p> <p>⇒長期的なビジョンを持った中で、そのことを目指すためにこの直近4年間は何をやらなきゃいけないかの方が考えやすいと思うが、長期的な計画を作る予定があるか。</p> <p>⇒議会でも長期的な展望がないとまちづくりが進んでいかないのではと意見があったので、総合指針の中にどれだけ将来展望を入れられるかを検討している。2025年問題が来年到達をし、次は2040年問題だと言われる中でどういった見通しが必要なのかを長期ビジョン検討委員会で議論しており、そういった要素を総合指針の中に入れたい。そこで、将来見通しに必要なデータを照会する予定である。将来見通しの幅は、ゼロカーボンが2050年に目指す目標のため、2040～2050年と幅を持たせた部分がある。最上位計画のような意味づけやバックキャストिंगでの発想などについても、意見交換しながら方向性を決めたい。</p> <p>⇒バックキャストिंगでの発想は必要だがそれがすべてではないと思う。これだけ変化がある中で、何十年も先を見通すこと自体が難しい</p>
-----------	--

<p>内容</p>	<p>ところがあると思っており、総合計画に変えて指針を取り入れたのも、長期的な視点を持ちつつも、今やらなければならない課題をしっかりと重点化してやっていくというところにあると考えている。長期的視点でいえば、都市と自然のバランスがちょうどいいところが藤沢の魅力であり、選ばれてきた要因だと思っているので、そのバランスを今後も維持していくことが大事なのではないかと思う。</p> <p>○求められる職員像について ⇒今年度、人材育成基本方針を見直し中で、現在骨子案を作成しており、11月に総務主管者会議で概要を伝え、12月に庁内の意見を集約させていただくことを予定している。</p> <p>〈理事者からの講評〉</p> <p>○人口減少は職員としては誰もが考えなければいけない問題であり、各部署の施策に直結すると思っている。具体的にその施策をしていない部署にあっても、市の施策に意見をさせていただくのは必要だと思うので、部内会議等で各部署各課長とも意見交換をしていただいて次回への披露も含めて十分ご議論をいただきたい。13地区の問題や財政状況の問題は、DX促進なども進めながら、職員としてどう関わっていくのかの視点を持ち、部内会議等で議論いただきたい。</p> <p>○意見交換の内容が難解な中で発言することは難しいと思うが、もう少し活発に議論できるとよい。</p> <p>○今進んでいるいろんなまちづくりは2030年半ばに出来るものが多いので、2040年はそんなに遠い話ではないと感じる。例えば下水道の耐震化にしたって、着実に進めていかなくてはいけない話である。デジタル化、グローバル化、交通体系だとかは急激な変化もあると思うので、着実にやっていくものと大きく変化していくものが両方ある中で、情報を取りながら対応していただきたい。</p> <p>(4) その他 特になし</p> <p>3 閉会</p>
-----------	--